

これからの歯科技工士に残すべきもの

歯科技工士のなり手は減少傾向にあり、歯科技工士養成機関も定員減少、募集休止、閉校等窮地に立たされている。総務省の日本標準職業分類による歯科技工士は大分類コードB：専門的、技術的職業従事者・中分類コード14：医療技術者・小分類コード147 歯科技工士である。また日本標準産業分類による歯科技工所は大分類P：医療・福祉・中分類83：医療業・小分類836：医療に附帯するサービス業・細分類8361：歯科技工所と位置付けている。しかし、患者に接する機会の少ない日常業務や長時間労働、低賃金等により将来を憂い、若年層を先頭に離職、廃業は後を絶たない状況にあり、従事する歯科技工士の平均年齢は上がる一方である。

働き方改革は歯科技工業も例外ではない。DX（デジタルトランスフォーメーション）は、データとデジタル技術によって商品やビジネス、業務、企業文化等の変革を成し遂げるものであり、その目的は競争力の維持・獲得・強化を果たすことにある。CAD/CAM 機器の進展によるデジタル技工やリモートワークは、これからの歯科技工士の憂いの解消可能なツールとして大いに期待できる。しかし、従来通りの解釈、法制度等ではチャンスを失うことになりかねない。このため本研修会では歯科技工士が必要とする知識（情報）を基に将来に向けて洞察力を高めたい。

【経歴】

氏名 奥村英世（おくむらひでよ） 生年：1960年3月25日
 所属 （一社）愛知県歯科技工士会
 学歴 日本歯科大学付属歯科専門学校（現 日本歯科大学東京短期大学）卒
 早稲田大学卒

§(一社)愛知県歯科技工士会

平成22年4月 副会長
 平成24年4月 副会長

§愛知県歯科技工士連盟

平成16年4月 常任理事

§(公社)日本歯科技工士会

平成24年7月 常務理事、歯科技工管理委員会委員長
 平成26年7月 常務理事、政策推進委員会委員、歯科技工所運営対策委員会委員
 平成26年11月 総合政策審議会 委員
 平成28年7月 常務理事、歯科技工所管理委員会委員長、記念誌編纂委員会委員、事業推進検討委員会委員
 平成30年7月 常務理事、歯科技工所管理委員会委員長、管理者資格と認定施設の制度構築PT 委員
 令和04年7月 副会長

§日本歯科技工士連盟

令和4年4月 会長
 現在に至る

略歴

1957年12月 群馬県高崎市生まれ
1981年03月 歯友会歯科技術専門学校専修科卒業（現在 明倫短期大学）
1981年04月 株式会社 クリスタルデント入社
1987年02月 有限会社 カナイナビデント開業
2002年01月 社団法人 日本歯科技工士会 認定講師
2002年04月 歯科衛生士専門学校 2校の非常勤講師
2002年05月 社団法人 群馬県歯科技工士会 会長
2003年04月 明倫短期大学 臨床教授
2013年04月 公益社団法人群馬県歯科技工士会会長
2014年04月 公益社団法人日本歯科技工士会理事
2023年～ 現在に至る。



KanaiNaviDent co,LTD

講演サブタイトル： 『どうする歯科技工士』

講演抄録

私自身 1980年代に歯科技工士を始めたのだが、歯科技工士を取り巻く環境（状況）は2020年代に入って大きく変化しているように感じる。

私は手作りで技術力が売りである職業と考え技術を高める事に専念してきたが、現在の歯科技工士は大きな変化が求められている思いがする。

この大きな変化をどれだけの歯科技工士が乗り越えていけるだろうか。特に個人経営者や 2000年代に始めた歯科技工士は悩むところである。

『歯科技工士は医療分野に*携わる』存在なのだから、製作した補綴装置に対して適切な価格が必要かと思う。

今後の歯科技工士の展望として、私の気持ちと希望をお話しして皆さんと一緒に『どうする歯科技工士』として考えたいと思います。

*携わる：仕事などに関係する？ 『歯科技工士は歯科医療分野の一員である。』